

ミカンジュース粕サイレージを混合した発酵 TMR は 産乳成績を維持し、飼料コストを削減できる

近年の飼料価格の高騰・高止まりにより生乳の生産コストが上昇し、酪農経営を圧迫しています。そのため、飼料用米や未利用資源等を活用して購入飼料の使用量を削減し、生産コストの低減を図る必要があります。そこで、佐賀県畜産試験場では、ミカンジュース粕サイレージを現物で 19% 程度を混合した発酵 TMR の給与は、産乳成績が維持され、飼料コストを削減できることを明らかにしましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. ミカンジュース粕サイレージの飼料構成比を原物で 19.2% とする試験区とミカンジュース粕サイレージを混合しない慣行区の 2 区の TMR を設定し、ホルスタイン種搾乳牛を各区に 10 頭を供試しました。TMR を発酵調製後、馴致期間 1 週間、試験期間 2 週間で給与試験を行いました。
2. 慣行区と試験区においてそれぞれの発酵 TMR を給与した際、試験区の乾物採食量、体重およびボディコンディションスコア (BCS) は、慣行区と同等でした。
3. 乳量および乳質についても、慣行区と同等の値でした
4. 血液性状は試験区の尿素窒素 (BUN) が若干低い値を示したが、試験区、慣行区の栄養状態や健康状態は異常がありませんでした。
5. 現物当たりの飼料購入費は、試験区が 23.6 円/kg、慣行区が 25.4 円/kg で、それぞれの現物採食量から 1 年間の飼料購入費を比較した場合、慣行区が 352,298 円/頭、試験区が 333,362 円/頭となり、試験区において 1 頭当たり 18,936 円のコスト削減となりました。



図1 ミカンジュース粕



図2 ミカンジュース粕サイレージ調製



図3 給与試験状況

☆ 活用面での留意点

1. 現行の給与から飼料を切り替える際、馴致期間を取り牛の採食量を確認しながら変更を行う必要があります。
2. 詳しくは、佐賀県畜産試験場大家畜研究担当山下大司 (Tel.0954-45-2030) にお問い合わせください。